



日本統計学会 会報 2020.4.30

No.
183

発行— 一般社団法人 日本統計学会
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F
公益財団法人 統計情報研究開発センター内 日本統計学会事務局
Tel & Fax : 03-3234-7738
編集責任—山下 智志 (理事長) / 玉置 健一郎 (庶務理事)
小池 祐太 (広報理事) / 明石 郁哉 (広報委員)
鎌谷 研吾 (広報委員)
振替口座—00110-3-743886
銀行口座—みずほ銀行九段支店普通 1466879番

JAPAN STATISTICAL SOCIETY NEWS

目次

- | | |
|--|---|
| 1. 巻頭随筆：統計学の普及……………清水邦夫… 1 | 6. 統計検定合格者の声……………川崎 茂・山下智志… 7 |
| 2. 2020年度統計関連学会連合大会のお知らせ(第二報)
……………藤野友和・山本義郎・富田 誠… 3 | 7. 理事会・委員会報告(2020年2月1日開催)… 10 |
| 3. 第14回日本統計学会春季集会の中止について
……………川崎 茂… 4 | 8. 社員総会報告…………… 11 |
| 4. Data Science, Statistics & Visualisation 2019 (DSSV
2019)(京都)開催報告…足立浩平・宿久 洋… 5 | 9. 博士論文・修士論文の紹介…………… 12 |
| 5. 2019年11月統計検定の成績優秀者
……………川崎 茂・山下智志… 6 | 10. 新刊紹介…………… 13 |
| | 11. JSS Research Series in Statistics からの新刊情報… 14 |
| | 12. 学会事務局から…………… 14 |
| | 13. 投稿のお願い…………… 14 |

1. 統計学の普及

清水 邦夫 (統計数理研究所 統計思考院特命教授 慶應義塾大学 名誉教授)

平成26年(2014年)3月に大学での教育・研究を卒業し、同年4月から統計数理研究所統計思考院において「共同研究スタートアップ」(以下、共研SUと略記)を担当してきた。以下において、本プログラムとそれを少し広げた話題について思うところを若干述べてみる。あくまでも個人の感想・私見であるので、統計思考院・共研SUを代表するものではないことを予めお断りしておく。共研SUについての詳細は対応するウェブページをご覧ください。ことにして内容を簡単に紹介すると、お申込み者からの統計的かも知れない質問や課題を原則として面談形式で1件につき1時間から1時間半程度でお申込みの内容についてうかがい、面談の中で内容について助言するとともに、所員との共同研究に進展する可能性を探ることとしている。共研SUは現在、清水を含む3名の特

命教授が担当しており、面談には統計思考院の担当助教・特任助教が同席する。場合によっては、所員や関係者が同席する場合がある。お申込み者のバックグラウンドは、統計学に関して初学者から論文において統計学を使用する研究者まで、かなり幅が広い。この点は大学における比較的均質化された学生の教育とはかなり異なる。相談の動機や内容についてこの場で紹介することは適切でない。相談における統計学の手法に限っていくつかを紹介する。共研SUという一つのプログラムにおける例であるので、これが統計学への関心やその使用についての世の中全体の傾向を表しているとは到底いえないけれども、統計学の社会への行き渡りの程度を部分的に知ることはできると思われる。なお、過去の相談内容のタイトルはウェブページ上に公開されている。

標本調査に関する事項の質問がときどきあった。母数の推定法、誤差の算出方法、標本の大きさはいくつにすればよいか、などが主なものであった。そのような質問がなされたときには、質問に答えるとともに、総務省統計局の標本調査に関するページに解説があることをお申込み者に伝えるようにしている。アンケートへの回答の分析やモデリング、確率論・統計学の教育の場面において生じる事柄はインターネットを通して見ることができる話題である。そのような話題で申込みがなされる場合の多くは、手法はご自分ですでに試しているものの、確信をもって事に当たりたいというお申込み者側の意向があるように見えた。また、他の話題についても類似の傾向は見られた。つまり、今やインターネットを利用して多くの知識を簡単に得ることができるので、統計学が広く社会に行き渡るようにはなった。けれども、得られる知識は時に曖昧であったり、記事に誤りが含まれていたりする場合がないわけではない。また、紹介されている記事がお申込み者の課題に完全に合致しているわけではないのが通例なので、手法を同じように適用してよいものか、もしくはさらによいと思われる手法はないのか等がお申込み者の関心事のようであった。正規分布・二項分布・Poisson 分布等のパラメータの最尤推定・検定や頻度論的・ベイズ的推測、およびそれらに付随して歴史的背景を含めての知識を得たいという学習意欲は、清水が担当するようになってから現在でも、何人かのお申込み者の中に依然としてあるように見えた。最近では、時代を反映して、機械学習や AI に関する質問が増加している。応用のさいに勧めた統計手法としては、回帰モデルや相関分析・因子分析・主成分分析・多重比較などの多変量解析の利用、カテゴリカルデータ分析、対数線形モデル、モデル選択、数量化法、画像解析の方法、時系列解析を用いた予測やモデル化、時空間統計解析、損害保険や生命保険数理の手法、メタアナリシスをあげることができる。

共研 SU での面談において、清水個人の研究分

野であった対数正規分布・離散分布等の分布論・推定論や応用分野として気象や環境データ解析に関与してきた経験、自分の専門とは言えないまでも教育の場面での卒業研究程度の指導経験はかなり役に立っている。また、遅くに研究に参入し、現在において興味の対象である方向統計学の分野の知識も時には使いどころがあった。それは、世の中にはさまざまな分野において角度を含むデータが結構あるからであろう。数理統計としては我が国における方向統計学分野の研究者数は依然としてそれほど多くないように見えるが、実質科学・技術の分野では角度データが現れるのは決して稀ではない。方向統計学の何冊かの良書が知られているので、それらに紹介されている手法を使っただけの解析が多くなされてきたのがこれまでの状況であった。今後は、最近になって得られた結果を使っただけの解析が行われるであろうし、また、実質科学・技術の実際の場面から新たな理論的問題が提起されるであろうと予想している。

共研 SU で行われることの実態は多くは関係者によるコンサルティングである。それ自体も統計科学が世の中で使用されることを推し進めるという意味で有意義な活動である。一方、共研 SU から所員や統計思考院関係者との共同研究に発展するような本来の目的に沿った例ももちろんあるし、また、お申込み者が共研 SU の利用により論文・口頭発表の成果につながることもある。それらのような成果は統計数理研究所年報に公開されている。諸科学・技術と統計学の連携が大切なことは、今更この場で改めて述べる必要もないほど多くの方々により繰返し語られてきた事柄ではある。乏しい経験の中でも言えることは、統計学は社会へ確実に浸透しており、広く行き渡ってきた様子が見られる。これにはインターネットの目覚ましい発展によるところが大きい。大学・研究所・その他の機関で統計学の正確な知識を容易に獲得できる体制、および将来を担う人材を継続的に確保できる体制の再構築が今後ますます求められるという実感を持つに至っている。

2. 2020年度統計関連学会連合大会のお知らせ（第二報）

運営委員長 藤野 友和（福岡女子大学）
実行委員長 山本 義郎（東海大学）
プログラム委員長 富田 誠（横浜市立大学）

今回で19回目になる2020年度統計関連学会連合大会について進捗状況をご報告いたします。今大会は応用統計学会、日本計算機統計学会、日本計量生物学会、日本行動計量学会、日本統計学会、日本分類学会の6学会主催により開催する運びとなりました。初日の9月8日（火）はチュートリアルセッションと市民講演会を、2日目以降（9月9日（水）～12日（土））は一般講演や企画セッションなどを、会場は富山国際会議場および富山県民会館で開催いたします。

この第二報では、主に企画セッションの公募をご案内いたします。今後、連合大会のホームページ

<http://www.jfssa.jp/taikai/2020/>

に関連情報や詳細情報を随時掲載していきますので、ご覧ください。トップページは近日中に公開予定です。なお、汎用の学会運営用のウェブシステムを利用しているため、上記アドレスにアクセスするとシステムのアドレスにリダイレクトされます。

1. 企画セッションの公募

統計関連学会連合大会プログラム委員会は、市民講演会、チュートリアルセッション、企画セッション、コンペティションセッション、ソフトウェアセッション等を担当しています。統計関連学会会員の皆様でご意見やご提案をお持ちの方は是非お知らせください。

また、企画セッションに関しては、今回もこれまで通り公募します。広い意味で統計学の発展への寄与、統計学の社会的使命に関わる企画等のご提案を歓迎します。なお、応募が多数の場合にはプログラム委員会で調整させていただくこともあ

りますので、ご了承ください。

企画セッションの申込に際しては、

- 1) セッションのテーマとねらい
- 2) オーガナイザーの氏名・所属・連絡先
- 3) 座長の氏名・所属
- 4) 予定講演者の氏名・所属・演題名・使用予定言語（日本語または英語）

を上記連合大会ホームページの「申し込み」からリンクされているフォームにてお申し込みください。【メールによる申し込みは受け付けておりませんのでご注意ください。】

企画セッション1件あたりの時間枠は120分を予定しています。講演件数・講演方法などは、この時間の範囲で自由に設定いただけます。

企画セッション応募締切

2020年4月6日（月）17：00 [厳守]

企画セッション担当者

kikaku2020 (at) jfssa.jp (at) を@に置き換えてください。

担当責任者 石岡 文生（岡山大学）

2. その他の準備状況のご報告

2.1 コンペティションについて

「コンペティション講演」に関わる事項は次の通りです。コンペティション講演は、研究内容とプレゼンテーションの能力を競う企画です。参加資格は2020年4月1日時点で満30歳未満の若手研究者（博士後期課程院生を含む）、または、講演時に学部学生や修士課程（または博士前期課程）院生（年齢を問いません）です。連名講演の場合、コンペティション対象者は実際に口頭発表する方です。なお、コンペティション対象者は、講演申

込時に主催6学会のいずれかの会員でなければなりません。ただし、入会申請中の方も認めます。プログラム委員会から各学会事務局に会員照会し、会員（入会申請中）でないことが判明した場合は、コンペティションへのエントリーを取り消しますので、十分にご注意ください。コンペティション応募総数は年々増加傾向にあり、プログラムを組むのが難しくなっています。したがって、今年度は申込順でコンペティション参加件数を制限することがあります。審査は、講演報告集の内容と当日の口頭発表に対して、各学会から選出された審査員による総合的な評価で行います。

2.2 チュートリアルセッション、市民講演会、ソフトウェアセッションについて

9月8日にチュートリアルセッションおよび市

民講演会を開催予定です。多くの市民や研究者の方々にとって興味を持っていただける内容を企画中です。皆様の積極的な参加をお待ちしています。また、昨年と同様にソフトウェアセッションについても計画しています。詳細は、2020年5月上旬頃発行予定の第三報でお知らせいたします。

2.3 一般講演申込、報告集原稿提出、事前参加申込について

一般講演や事前参加の申込、報告集原稿提出はホームページ上で行います。一般講演申込の締切を6月上旬（予定）とし、それ以降、報告集原稿提出および事前参加申込の締切を設定します。確定した期日や具体的な企画は、第三報でお知らせいたします。

3. 第14回日本統計学会春季集会の中止について

川崎 茂（日本統計学会会長）

第14回日本統計学会春季集会については、多くの皆様のご協力のもと、本年3月14日の開催に向けて準備を進めていました。しかし、年初に発生した新型コロナウイルスの急速な感染拡大の状況を踏まえ、その開催について緊急に理事会に諮り協議した結果、大変残念ながら、全会一致で春季集会開催を中止することとしました。このことについては、すでに会員向けメーリングリスト及び学会ホームページにてお知らせしましたが、改めてご報告申し上げます。

春季集会は、会員相互の研究交流・発表の場として非常に重要な学会の行事であり、楽しみにされていた方も多いことと思います。また、講演者や開催校、担当委員の方々には、開催に向けて献身的な準備をしていただきました。このようなご

労苦に報いることができず、ご期待に沿うことができなかったことは、誠に断腸の思いがいたします。

中止に伴う事務処理については、担当理事のご協力の下、学会としてできる限りの対応をさせていただいております。ご不便が生じた方もおられることとは思いますが、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

現在のところ、先行きの見通しは立てにくい状況ではありますが、中止となったセッション等については、今後別の機会を見つけて開催を試みるなど、関係される皆様のご協力を得て可能な限りの対応をしてみたいと思います。

皆様のご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。

4. Data Science, Statistics & Visualisation 2019 (DSSV 2019)

(京都) 開催報告

実行委員長 足立浩平 (大阪大学)

実行副委員長 宿久 洋 (同志社大学)

Data Science, Statistics & Visualisation (DSSV) は、International Statistical Institute (ISI) の International Association of Statistical Computing (IASC) 部門が主催する国際学会であり、この2019年大会が、ISIのWorld Statistics Congress 2019のサテライト会議の位置づけのもと、次のように、日本(京都)で開催された。

【期間】2019年8月13日(火曜)～15日(木曜)

【会場】京都市 同志社大学・今出川キャンパス

【Web ページ】<http://iasc-isi.org/dssv2019/>

【共催】日本統計学会・日本計算機統計学会・統計数理研究所

【後援】統計関連学会連合

なお、本大会は、ISI 東京大会記念基金、統計数理研究所、京都市の助成を得た。

DSSV は、広くデータサイエンス、統計学、および、可視化研究に関わる研究者が、最新の研究について発表・聴講・意見交換し、さらには、異なるディシプリンの研究の中に新たなアイデアを見いだすためのフォーラムとして開催されてきた。対象となるテーマには、機械学習・ビッグデータ処理・最新の計算論なども含まれる。DSSVの最初の大会は2017年にポルトガルのリスボン、次の大会は2018年にオーストリアのウィーンで、そして、3回目の本大会(DSSV2019)が京都で開催され、日本および他の14カ国からの参加者を得て、その総数は216名であった。

基調講演を Di Cook 氏 (オーストラリア・モナ

ーシュ大学)、Kwan-Liu Ma 氏 (米国・カリフォルニア大学)、Richard Samworth 氏 (英国・ケンブリッジ大学) が、招待講演を Genevera Allen 氏 (米国・ライス大学)、Yongdai Kim 氏 (韓国・ソウル国立大学)、下平英寿氏 (京都大学)、Huixia Judy Wang 氏 (米国・ジョージワシントン大学) が行い、最先端の研究と今後の方向性が示された。また、9件の招待企画セッションが開催され、延べ23件の招待発表が行われた。上記9件の中の1つは日本統計学会が主催し、金森敬文氏 (東京工業大学) の企画・座長のもとに「Machine Learning and Statistics: Their Great Achievements and Grand Challenges」と題され、川鍋一晃氏 (ATR・理研 AIP)、鈴木大慈氏 (東京大学・理研 AIP)、福水健次氏 (統計数理研究所) が招待発表を行い、多くの聴衆の興味を得た。一般口頭発表セッションの数は18件で、延べ59件の口頭発表が行われ、計37件のポスター発表の中で優れたもの5件の発表者が表彰された。

8月13日の夜には、鏡割から始まる歓迎レセプションが「ザ ソウドウ 東山 京都」で開催された。8月14日の夜には晩餐会が「鶴清」で開催され、開始のセレモニーとなった祇園の芸妓・舞妓さんによる京おどりは、特に海外からの出席者より大歓迎を得た。なお、Web ページ

<https://jdssv.org/index.php/jdssv>

に告知されるように、DSSV の学術誌 (JDSSV) の刊行が開始される予定である。

5. 2019年11月統計検定の成績優秀者

川崎 茂 (日本統計学会会長)
山下 智志 (日本統計学会理事長)

2019年11月24日に第13回目の統計検定が6試験種別で行われました。以下に、各試験種別の合格者のうち、成績優秀者でかつ公開に同意された方々の氏名を掲載します。掲載は姓の五十音順です。また以下の情報は統計検定のホームページでも公開しております。

1級「統計数理」

最優秀成績賞 (S)：小井手祐介，佐藤晴紀，塩谷天章，新保直紀，高橋智貴，堀田智洋

優秀成績賞 (A)：秋山慧斗，荒井勇人，今村洋介，岡部健次，小野寺悠介，笠原直樹，河村健志，黒田航太郎，小池昌裕，小西白峰，眞田貴央，西島隆人，林佑亮，日野雅喜，山内悠平，吉田航，米田竜也

1級「統計応用」

最優秀成績賞 (S)：大原健悟，岡田和史，上井良介，小林祐太，田中裕貴，松崎紫音，松田康隆，山内悠平，山田賢

優秀成績賞 (A)：井上領介，佐藤晴紀，杉岡新，田川芳洋，堤太一，箕輪裕，吉澤智也，吉田直人

2級

最優秀成績賞 (S)：東達也，稲葉裕哉，岩田卓也，河野幸弘，河原井洋，黒木啓志，小池純基，小島駿，小島幹生，小林秀徳，佐多泰紀，高橋良希，高橋遼，田中堅太郎，長健太，仲角稔，稗田尚弥，平井大貴，松井竜也，松本岳彦，見勢淳，宮嶋栄，室井葉介，吉川遊

優秀成績賞 (A)：有本光希，井村智輝，岩塚紳矢，大野陽介，小笠原秀和，岡部孝英，長田大，楫友磨，川口瞬，河田洋平，菊池裕，北原寛千，熊谷正道，小島貴之，斉藤諒馬，瀬端圭悟，竹内

美美香，坪井佑樹，中井颯人，中谷侑司，中野寛之，成瀬柊彦，東池一輝，牧田佳大，水野浩伸，村上治，村松雛子，山川輝，山本迅平，吉田光秀

3級

最優秀成績賞 (S)：飯澤睦也，岩崎心之介，太田智寧，大友莊河，小笠原秀和，河原井洋，小林弘輔，斎藤大暉，柴田龍平，伊達健一郎，富澤裕紀，中井遼，藤田政一，村上直弥，山根瑞生，渡邊海

優秀成績賞 (A)：沖修平，佐藤陽日，清水厚道，鈴木開，高橋一斗，立松空，樗木久之，露木創，平涼太，藤原大樹，細野来紀，前野剣吾，安田雅美，山田蓮，山本将裕

4級

最優秀成績賞 (S)：大西拓実，勝田万丈，志知孝一，平田実寛

優秀成績賞 (A)：池田響，岡浩，岡藤康明，沖修平，胡内翔太

統計調査士

最優秀成績賞 (S)：安達和隆，井上進輔，風間政和，阪本勇樹，高野一輝，中澤篤志，迎堅太郎，若松弘晃

優秀成績賞 (A)：大野圭司，岡田雅文，木村敦，木村優吾，齊藤洋太，鈴木実，成瀬豊，廣田正之，松尾弘法，森井正覚，山本直子

専門統計調査士

最優秀成績賞 (S)：安達和隆，加島淳平，長崎義人，中澤篤志

優秀成績賞 (A)：小田竜治，鳥村源太，蓮井久美子，宮路雄介，宮島正彦

6. 統計検定合格者の声

川崎 茂 (日本統計学会会長)

山下 智志 (日本統計学会理事長)

1級「統計応用」合格

杉岡 新さん (会社員)

「理論と実応用の基礎知識の証明」

私が統計検定を知ったのはインターネットでデータ処理に関わる数理系の資格を検索したことがきっかけでした。データの活用が叫ばれるようになって久しいところですが、業務上適用条件や結果の解釈に誤認のある・曖昧さの残る分析を目にすることが多く、基礎理論を理解して地に足がついた状態でデータに接したいと考えていました。統計検定1級は出題範囲で理論と実応用の双方をカバーしており、自らの身につけたい知識に近いと考え受験を決めました。

受験対策としては、大学の教養課程で学んだ基礎的な統計学もほぼ忘れていた状況で、仕事で学習時間も限られていたことから、問題集・過去問で主たる数理統計学の運用法を手で覚えることを優先し、教科書は具体例を抽象的に理解するために辞書的に利用するという方法で勉強を進めました。夜間・週末を中心に学習し、微積分・線形代数の復習を含め、結果として半年程度の学習期間でした。確率分布にまつわる量(分布関数・密度関数・モーメント・母関数など)の関係性を理解し、自由自在に計算ができるようになるまでは苦労しましたが、その後は順調に学習を進めることができました。

受験を通じて改めて特徴的だと感じたことは、1級の「統計応用」の問題では、生存時間解析・品質管理など実応用の状況下での統計学の運用を問われていることです。この度合格できたことで、確率・統計にまつわる実社会の問題に正しく取り組むための第一歩を踏み出すことができました。

産業界でも統計学への関心が高まる中、周囲の

反応を見ても、統計検定の確率・統計の理論と実応用の基礎知識の証明としての効力を実感しています。今後統計検定が、確率・統計・データを扱う人材の標準としてより多くの方に認知されることを願っています。

1級「統計数理」合格

小池 昌裕さん (アビームコンサルティング株式会社)

「データ分析を用いたより高度な経営コンサルティングの実践を目指して」

私は現在データ分析を用いた経営コンサルティング業務に従事しています。業務で使用する分析手法は非常に多岐にわたり、お客様の課題に応じて最適な分析手法を用いてコンサルティングを行っています。多様な分析手法を習得することも重要ですが、一方で各手法の理論的理解が表層的になることに課題を感じていました。分析手法の習得だけでなく統計学を理論面から深く勉強し、理解するきっかけにしたいと思い、受験しました。

統計検定1級の範囲は、種々の確率分布、統計的推測(推定・検定)、回帰分析、時系列分析、シミュレーション、ベイズ法、ノンパラメトリック法等の基本的な統計学の理論部分が範囲となっているため、基礎力をつけるという意味で大変勉強になりました。受験後の現在では統計検定で培った知識を活用して、試験範囲の分野をより深く学んだり、試験範囲外の分野も勉強しています。試験範囲外の統計学の勉強にも統計検定で学習した内容が大変役立っており、基礎力がついていてことを実感しています。まさに当初の目的であった統計学の理論面からの理解をさらに深めるきっかけとすることができました。

この記事をご覧の方も何等かの課題意識をもつ

て受験を悩まれているかと思いますが、統計検定で学習することに無駄はないので、是非受験されることをお勧めします。

2級合格

村上 治さん（あいおいニッセイ同和損保(株)）
「過去問を起点に対策を」

これから統計検定2級を受ける方へ、合格するために必要なものは何か？ 大事なのは過去問です。「いやいやまだテキストが理解できていないし、最後まで読み終わってすらいないし、それに同じ問題は出ないでしょ。」そんな声が聞こえてきそうです。それでもあえて言います。大事なのは過去問です。とにかく自分の力で解いてみるということによって得られるものがあります。

2級の問題には、かなりの割合で記述統計が含まれます（記述統計の理解が不十分であれば先に3級の範囲をカバーする必要があります）。例えば記述統計は分かっているとして、現段階で持っている知識や技能で、35問ないし36問のうち、どれだけ正解でき、どれだけ上積みすれば合格できるのか？ ちょっと頑張れば正解できそうな問題がどの分野でどれくらい出題されるのか？（逆に）チョットやそっとではできそうにない難問がどれくらいあるのか？ など、様々な情報が過去問を解くことで得られます。正解すれば解き方の練習になり、不正解なら弱点を見つけることができます。どの分野でどれだけ頑張れば目標点に到達できるかわかります。これらは、その人それぞれのオリジナル情報です。過去問は単なる練習問題ではないのです。

過去問を解いたら、解答・解説を見て、自分なりに解き方を考えます。それを助けるためにテキスト（公式である必要はない。網羅性よりも分かり易さ優先で選ぶ。）をメリハリをつけて参照し、理解を深めます。そして、あらためて過去問を解いてみます。つまり、テキストと過去問のサイクルの起点には、テキストではなく過去問を置くのです。これが得点力強化の近道です。

また、統計学にはいくつかの公式が登場します。

これらを見て面食らうこともあるかもしれませんが、しかし、これらを証明せよ、などという問題は勿論、説明を求める問題も出題されません。求められるのは、これらを「道具」として使えるかどうかです。よって、なぜそのような公式になるのか解らなかったとしても、まずは数字を当てはめて問題を解いてみて下さい。

テキストを読んでいて挫折しそうな方、是非お試しを。

3級合格

山田 蓮さん（明星中学校2年）

「IT 関連の仕事に大切」

僕は将来 IT 関連の仕事につきたいと考えています。そこで、仕事について調べると、これからはデータを正しく見て、活用する力が大切だという文章が多いことに気づきました。インターネット上の膨大なデータを扱って仕事をする IT の仕事では、この力はなおさら必要なのではと思い、興味を持っていたのですが、具体的にどうすれば良いのかわからないまま時間が過ぎました。

僕に統計検定のことを教えてくれたのは、「めばえ適塾」の皆さんです。そこで僕は自分の力を試すことができると知り、勉強を始めました。最初は高校内容の参考書を読んで内容を理解しきったと思っていたのですが、過去問を解いてみると、統計の知識をさらに発展させた問題が多く、思うように点が取れませんでした。そこから試験問題から知識とその得た知識をどう使うかを学ぶように勉強方法を変え、試験前日にした過去問で合格が見える点を取ることができました。

これから3級を受験される方には、過去問演習をおすすめします。僕が合格したのは3級です。まだまだデータを正確に見極めたり、最大限に活用したりする力は足りていないと考えています。しかし、今回の検定でその力を得るためのスタートラインには立てた気がします。とても良い経験になりました。

統計調査士合格

大野 圭司さん（公務員（保健所））

「統計資料を政策立案に活かす」

現在、保健所で国民生活基礎調査、人口動態調査などに従事しています。業務を行う中で、せっかく統計に関わるのだから受動的に仕事をするだけではもったいない、ひとつ統計に詳しくなってやろうと思い、統計検定にチャレンジしました。

統計検定の数ある種別の中でも、公表された統計資料を政策立案に活かす能力を磨きたいと考え、今回は統計調査士に申し込みました。しかし、過去問をよくよく眺めると、2級、3級といった級別検定に比べて対策が難しいな、という感想を持ちました。統計調査士では級別検定のような数理的なスキルはもちろん、調査の実務、国内外の統計制度、時事まで幅広く身につけなければなりません。しかし、今回運よくA評価をいただくことができました。

私の学習法ですが、はじめに、業務で参加した講習会で配布された『厚生統計テキストブック』（厚生労働統計協会）を読み込みました。このテキストは統計法の解説から、統計調査員制度、グラフの効果的な使い方、厚生統計一覧などが網羅されており、実務でも役立っています。統計数理の学習は『統計学入門』（東京大学出版会）で行いました。本格派の入門書ですので隅から隅まで理解できたわけではありません。今後の2級受験の際にもっとよく理解しようと考えています。調査の知識を増やすためには『社会調査の実際』（学文社）を通読しました。

ここから先は試験のためというより興味に従ってですが、総務省統計局にある「統計資料館」にも足を運びました。ここでは国勢調査が歴史上どのように企画されたのかを知ることができ、教養が深まりました。また、新聞記事に取り上げられた公的統計について調べることで、実社会における統計の役割を再認識することができました。

行政の現場では、計画策定などの裏付けに統計資料を活用します。EBPMが叫ばれる昨今、今後の政策立案にあたっては、統計資料からより説得

力のある知見を引き出したいと考えています。

専門統計調査士合格

宮島 正彦さん（アルピコホールディングス
株式会社経営企画部）

「今後も新しい知識にチャレンジしていきたい」

専門統計調査士を「A：優秀成績」、統計調査士（CBT）を「S：最優秀成績」で合格することができました。

2019年は、データサイエンスの知見を身につけ実務に活かすため、統計解析やITのスキル等に関連した試験の合格をメルクマールに学習に取り組みました。具体的には、「統計調査士（CBT）」「専門統計調査士」「Python 3 エンジニア認定データ分析試験（ベータ試験）」「高度情報処理技術者試験（ITストラテジスト）」を受験し、全てに合格することができました。この過程で学習も進み、特に、「専門統計調査士」の受験対策でテキストに使った『入門・社会調査法』の通読により受験対策以上の実務的な知識が得られました。

受験対策について云えば、統計調査士は公式問題集で過去問を繰り返せば十分でしたが、専門統計調査士は過去問だけでは合格ギリギリで、「優秀成績」合格は難しかったと思います。その点、『入門・社会調査法』はテキストとしておススメです。また、Pythonで実際に手を動かして記述統計や統計分析をしてみたことが知識の定着に役立ち、実務利用にもつながりました。

2020年は、ベータ試験が予定されている「統計検定 データサイエンス発展」に照準を合わせ学習を進めるとともに、今も一部実務で利用しているPythonの熟達を目指し、また、「統計検定準1級」にも挑戦し統計の知識を深めたいと考えています。

元来が文系で、会社でも営業、管理、監査、企画といったセクションを歩き、年齢的にも今年は58歳になり、相当なオジイチャン（事実、孫もいます）となり、老眼鏡も手放せませんが、今後も新しい知識にチャレンジしていきたいと考えています。

7. 理事会・委員会報告 (2020年2月1日開催)

日時：2020年2月1日（土曜日）午後0時10分～午後1時23分

場所：早稲田大学早稲田キャンパス 3号館8階3-812教室

理事の総数 13名 出席理事の数 13名
監事の総数 3名 出席監事の数 2名

出席者：

理事：川崎茂会長，山下智志理事長，伊藤伸介（庶務），玉置健一郎（庶務），吉田靖（会計），青嶋誠（JJSD），吉羽要直（会誌編集和文），小池祐太（広報），稲葉由之（大会・企画・行事），汪金芳（国際），松田安昌（国際），前田忠彦（渉外），瀬尾隆（渉外）（以上13名，カッコ内は役割分担）

監事：赤平昌文，岩崎学

欠席：中西寛子（監事）

第1議案 2020年度事業計画について

山下理事長より，資料に基づき，2020年度事業計画が提案され，理事会で承認を得た。

第2議案 2020年度予算について

山下理事長より，2020年度予算が提案された。また，吉田会計理事によって補足説明がなされた。2020年度予算については，理事会で承認を得た。

第3議案 2020年度理事会日程，社員総会日程について

2020年5月9日から早稲田大学で理事会を開催予定であること，また，5月30日13時30分から早稲田大学で社員総会を開催予定であることについて，承認を得た。

第4議案 DSSV2019開催報告について

山下理事長より，DSSV2019の開催報告がなされた。またDSSV2019の報告について次号の会報に掲載することについても確認された。

第5議案 ISI 東京大会記念基金運営委員会委員について

山下理事長より，2020年3月で任期が切れるISI 東京大会記念基金運営委員会委員について，中野純司委員，赤平昌文委員，美添泰人委員から川崎茂会長，山下智志理事長，吉田朋広会員（東京大学教授）に交代する旨の提案があり，理事会で承認を得た。

第6議案 赤池メモリアル選考委員について

山下理事長より，赤平昌文会員（日本統計学会前会長）が赤池メモリアルレクチャー賞選考委員に新たに就任することについて，理事会で承認を得た。

第7議案 春季集会準備会議について（資料4）

山下理事長より，2019年12月14日に開催された春季集会準備会議の内容について，説明がなされた。

第8議案 コーネル大学加藤賢悟氏の日本学術振興会賞受賞について

山下理事長より，日本統計学会から推薦したコーネル大学の加藤賢悟氏が日本学術振興会賞を受賞したことについて報告がなされた。

第9議案 会員の入退会

山下理事長より，回収資料に基づき，入退会希望者が紹介され，審議の結果，承認を得た。

一般社団法人 日本統計学会 委員会

日時：2020年2月1日（土曜日）午後1時23分～午後2時58分

場所：早稲田大学早稲田キャンパス 3号館8階3-812教室

出席：理事13名，監事2名，計15名

川崎茂会長，山下智志理事長，伊藤伸介，玉置健一郎，吉田靖，青嶋誠，吉羽要直，小池祐太，稲葉由之，汪金芳，松田安昌，前田忠彦，瀬尾隆，赤平昌文（監事），岩崎学（監事），

欠席：中西寛子（監事）

<報告事項>

1. JJSD 支援委員会

青嶋委員長より，JJSDのこれまでの刊行状況と最新号の編集状況について報告があった。また，JJSD 無料購読の手続きについても報告があった。

2. 和文誌編集委員会

吉羽委員長より和文誌第49巻第2号の編集状況について報告があった。また，日本統計学会春季集会における和文誌関連の企画セッションについても報告があった。

3. 大会委員会

稲葉委員長から2020年度統計関連学会連合大会の第1報について報告があった。

4. 企画・行事委員会

稲葉委員長から2019年度の日本統計学会春季集会の準備状況について報告があった。

5. 庶務委員会

玉置委員長より、以下の共催、後援、協賛の承諾についての報告があった。

①共催承諾について

第9回科学技術教育フォーラム

主催：日本品質管理学会

②後援承諾について

(1) 第2回 WiDS Tokyo

主催：横浜市立大学データサイエンス推進センター

(2) IMS-APRM2010

主催：Institute of Mathematical Statistics

③協賛承諾について

機械学習と公平性に関するシンポジウム

共催：人工知能学会 倫理委員会

日本ソフトウェア科学会 機械学習工学研究会

電子情報通信学会 情報論的学習理論と機械学習研究会

山下理事長より、過去の委員会委員が閲覧されていないことについて指摘があり、過去の委員を載せることになった。また、玉置委員長より、2019年度複製使用料の分配に関して学術著作権協会に委託することについて報告があった。

6. 広報委員会

小池委員長より日本統計学会会報の最新号が2020年1月に刊行された旨の報告があった。また、日本統計学会の歴史のページの更新についても報告があった。日本統計学会 HP の編集権限についても検討がなされた。

7. 国際関係委員会

汪委員長より、2019年11月8日～9日にソウル市立大学で開催された国際セッションについて報告があっ

た。また、2020年度以降に予定している国際セッションについても報告がなされた。

8. 渉外委員会

山下理事長より横幹連合の理事・監事候補推薦について、統計数理研究所の宮里義彦副所長を推薦する旨の報告があった。また、山下理事長より、2021年度統計関連学会連合大会を長崎大学で開催する予定であることについて報告があった。

9. その他

質保証委員会の瀬尾委員長より、2019年12月6日に統計検定の運営委員会が開催されたことについて報告があった。また、日本統計学会の統計検定への関わり方について議論がなされた。

<審議事項>

1. JJSD 支援委員会

特になし

2. 和文誌編集委員会

特になし

3. 大会委員会

特になし

4. 企画・行事委員会

特になし

5. 庶務委員会

特になし

6. 広報委員会

特になし

7. 国際関係委員会

特になし

8. 渉外委員会

特になし

9. その他

特になし

8. 社員総会報告

日時：2020年3月13日（金曜日）午後6時00分～午後7時15分

場所：早稲田大学早稲田キャンパス3号館9階3-909教室

出席者：川崎茂会長、山下智志理事長

出席代議員：岩崎学、川崎茂、高部勲、竹内光悦、樋口知之、山下智志

定数の確認

川崎会長より、以下のように社員総会の決議の要件が満たされている旨説明があった。

(1) 社員の総数33名

(2) 総社員の議決権の数33個

(3) 出席社員の数（委任状による者を含む）32名（出席6名、委任状26名）

(4) 書面により議決権を行使した議決権の数1個

(5) これらの議決権の総数33個

オブザーバーの承認 (川崎会長)

社員総会に次の3名が出席する旨説明があり、承認された。

吉田理事 (会計), 伊藤理事 (庶務), 玉置理事 (庶務)

議事録署名人の提案と承認

川崎会長より、議事録署名人として岩崎学代議員、樋口知之代議員に依頼する旨の説明があり、承認された。

審議事項

第1議案 学会賞各賞の選考委員に関する件

川崎会長より、各賞の規定に基づく会長が推薦する選考委員として、大森裕浩会員および中野純司会員が推薦され、審議の結果、承認された。

第2議案 名誉会員に関する件

川崎会長より、資料に基づき、森棟公夫氏、赤平昌文氏および前川功一氏を日本統計学会名誉会員とする提案があり、審議の結果、承認された。

報告事項 (理事会報告)

1. 2020年度事業計画

山下理事長より、資料に基づき、2020年度事業計画について説明があり、承認された。

2. 2020年度予算

吉田会計理事より、資料に基づき、2020年度予算について説明された。

3. 第14回春季集会の中止について

山下理事長より、第14回春季集会の中止について報告された。

4. 会員の入退会

山下理事長より、回収資料に基づき、会員の入退会について報告された。

報告事項 (委員会報告)

1. 常設委員会における委員長・委員の交代・再任について

山下理事長より、資料に基づき、常設委員会の委員長・委員の交代・再任について報告された。

2. 2020年度統計関連学会連合大会について

山下理事長より、2020年9月8日(火)~12日(土)に、2020年度統計関連学会連合大会が富山国際会議場と富山県民会館において開催される旨が報告された。

3. 科研費「国際情報発信(B)」について

山下理事長より、科研費「国際情報発信(B)」について報告された。

4. 日本統計学会各賞について

山下理事長より、日本統計学会各賞の募集期間2019年12月9日(月)~2020年3月27日(金)を延長し、2019年12月9日(月)~2020年4月6日(月)とする提案があり、承認された。

報告事項 (その他)

1. 統計教育委員会と統計教育分科会の活動について

竹内代議員より、統計教育委員会と統計教育分科会の活動について報告された。

2. 次回日程について

次回社員総会が2020年5月30日(土)13:30から開催されることが案内された。

9. 博士論文・修士論文の紹介

最近の博士論文・修士論文を原稿到着順に紹介いたします。(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年月の順に記載いたします。

博士論文

● (1) 中山優吾 (2) 博士 (理学) (3) 筑波大学 (4) Support vector machine in high-dimension, low-sample-size settings (5) 青嶋 誠 (6) 2020年3月

● (1) 篠田 覚 (2) 博士 (理学) (3) 東京理科

大 学 (4) Models and measures of symmetry for multi-way contingency table analysis (5) 富澤貞男 (6) 2020年3月

● (1) 吉本拓矢 (2) 博士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Modeling and decompositions of symmetry for multi-way contingency tables (5) 富澤貞男 (6) 2020年3月

修士論文

● (1) 江頭健斗 (2) 修士 (理学) (3) 筑波大学

(4) Asymptotic properties of distance weighted discrimination and its bias correction (5) 青嶋 誠 (6) 2020年3月

● (1) 小西啓介 (2) 修士 (理学) (3) 筑波大学 (4) High-dimensional covariance matrix estimation under the strongly spiked eigenvalue model (5) 青嶋 誠 (6) 2020年3月

● (1) 池田浩輝 (2) 修士 (理学) (3) 筑波大学 (4) A test of diagonal structures for high-dimensional covariance matrices (5) 青嶋 誠 (6) 2020年3月

● (1) 中島翔貴 (2) 修士 (理学) (3) 筑波大学 (4) 従属性を有する高次元混合モデルの幾何学的表現 (5) 青嶋 誠 (6) 2020年3月

● (1) 長谷川直人 (2) 修士 (理学) (3) 筑波大学 (4) Variable selection in multivariate linear regression models (5) 青嶋 誠 (6) 2020年3月

● (1) 齋藤 健 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Measure of departure from marginal point-symmetry for multi-way contingency tables (5) 富澤貞男 (6) 2020年3月

● (1) 高久保望 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) A measure of departure from local marginal homogeneity for square contingency tables (5) 富澤貞男 (6) 2020年3月

● (1) 高田智将 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Measure of departure from cumulative local symmetry for square contingency tables having ordered categories (5) 富澤貞男 (6) 2020年3月

● (1) 武井俊樹 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Geometric mean type measure of marginal homogeneity for square contingency tables with ordered categories (5) 富澤貞男 (6) 2020年3月

● (1) 野口智裕 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Bivariate index for marginal homogeneity in square contingency tables having ordered categories (5) 富澤貞男 (6) 2020年3月

● (1) 星ひかる (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) A generalization of bivariate index for measuring departure from double symmetry in square contingency tables (5) 富澤貞男 (6) 2020年3月

● (1) 伊井裕亮 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Test for symmetry in 2x2 contingency tables with nonignorable nonresponse (5) 田畑耕治 (6) 2020年3月

● (1) 成瀬進亮 (2) 修士 (数理学) (3) 南山大学 (4) 多群比率モデルにおけるオッズ比とリスク比の多重比較検定法 (5) 白石高章 (6) 2020年2月

● (1) 金武芽実 (2) 修士 (数理学) (3) 南山大学 (4) 生存時間解析におけるコンピュータに従うデータの分析の研究 (5) 松田真一 (6) 2020年2月

● (1) 尾崎友彦 (2) 修士 (数理学) (3) 南山大学 (4) 正準相関分析を包絡分析法に適用する研究 (5) 松田真一 (6) 2020年2月

● (1) 中島貴志 (2) 修士 (経済) (3) 岐阜聖徳学園大学 (4) 近似正規確率変数に関する研究 (5) 齊藤善弘 (6) 2020年3月

● (1) 皆川聡慶 (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) 一般化リッジ推定による回帰モデルの変数選択 (5) 廣瀬慧 (6) 2020年2月

● (1) 今村拓未 (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) Order selection test for LAQ models (5) 増田弘毅 (6) 2020年2月

10. 新刊紹介

会員からの投稿による新刊図書の紹介記事を掲載します。

● Nobuoki Eshima 『Statistical Data Analysis and

Entropy』 Springer Nature, 2020年1月22日, 価格: 103.99ユーロ

11. JSS Research Series in Statistics からの新刊情報

日本統計学会編の書籍シリーズ JSS Research Series in Statistics からの新刊情報を掲載します。

● 宮脇 幸治 『Bayesian Analysis of Demand Under Block Rate Pricing』 Springer, 2019年12月, 冊子体: 49.99ユーロ

内容紹介: 本書はブロック料金制下の需要関数に関する推定手法をまとめたものである。政策決定の観点からのみならず、多項トービットモデルの推定手法に関する研究としても有用である。

12. 学会事務局から

学会費払込のお願い

2020年度会費の請求書が会員のお手元に届いていることと思います。会費の納入率が下がると学会会計に大きく影響いたします。速やかな納入にご協力をお願い申し上げます。便利な会費自動払込制度もご用意しています。次の要領を参照の上、こちらもご活用下さい。また、クレジットカードでの学会費払込も受け付けております。お申込みは学会ホームページよりお願いいたします。
(<https://www.jss.gr.jp/fec/>).

学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに、氏名と住所を以下にお伝えください。手続きに必要な書類が送付されます。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6
能楽書林ビル5F
公益財団法人統計情報研究開発センター内
日本統計学会担当
Tel & Fax : 03-3234-7738
E-mail : shom@jss.gr.jp

訃報

次の方が逝去されました。謹んで追悼の意を表し、御冥福をお祈り申し上げます。

辻村 江太郎 名誉会員

入会承認

浅尾高行, 笈悠夫, 川上裕大, 高橋信, 高松幹, 野尻宗子, 長谷川亮, 吉村広志 (敬称略)

退会承認

浅川達人, 飯森孝行, 大床太郎, 木村富美子, 坂上佳隆, 里麻克彦, 瀬尾亨, 高野健太, 垂水共之, 稗田尚弥, 増田宗人, 宮内環, 明福幸慶 (敬称略)

現在の会員数 (2020年3月11日)

名誉会員	13名
正会員	1,414名
準会員	3名
学生会員	66名
総計	1,496名
賛助会員	17法人
団体会員	8団体

13. 投稿のお願い

統計学の発展に資するもの、会員に有益であると考えられるものなどについて原稿をお送りください。以下のような情報も歓迎いたします。

● 来日統計学者の紹介

訪問者の略歴、滞在期間、滞在先、世話人などをお知らせください。

● 博士論文・修士論文の紹介

(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年月 をお知らせください。

● 求人案内 (教員公募など)

● 研究集会案内

● 新刊紹介

著者名、書名、出版社、税込価格、出版年月をお知らせください。紹介文を付ける場合は100字程度までとし、主観的な表現は避けてください。

● 会員活動紹介 (叙勲・受章、各種受賞等)

できるだけ e-mail による投稿、もしくは、文書ファイル (テキスト形式) の送付をお願い致します。

原稿送付先：

〒153-8914 東京都目黒区駒場3-8-1

東京大学大学院数理科学研究科

小池 祐太 宛

E-mail : koho@jss.gr.jp

(統計学会広報連絡用 e-mail アドレス)

- 統計学会ホームページ URL :
<https://www.jss.gr.jp/>
- 統計関連学会ホームページ URL :
<http://www.jfssa.jp/>
- 統計検定ホームページ URL :
<http://www.toukei-kentei.jp/>
- 住所変更連絡用 e-mail アドレス :
meibo@jss.gr.jp
- 広報連絡用 e-mail アドレス :
koho@jss.gr.jp
- その他連絡用 e-mail アドレス :
shom@jss.gr.jp